

# 岸田政権と自民党の行方

福山大学客員教授

田中秀征

- \* 不支持が過半に
- \* 条件付き支持の理由
- \* 忌憚ない相談相手の重要性
- \* 統一教会問題を考える
- \* 支援組織の役割
- \* 無くなった党内の政策論争
- \* 選挙制度見直しが必要
- \* 行政改革の不毛
- \* 失敗を認識すること
- \* 官僚に多彩な才能を



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

岸田政権が昨年生まれて、期待もあつたわけですが、いろいろありまして、たいへんな迷走ぶりを示しております。内閣も辞任閣僚が相次ぎ、少しがたがたしております。自民党全体としてどうも政治が非常に劣化しているというのが外から見た印象でございます。先日、田中先生にもそうお話ししましたら、まさにそのとおりだということでございました。今日はなぜ保守政治が劣化してしまったのか、その辺をつまびらかにお話をいただきたいと思えます。

それでは田中先生、よろしくお願ひいたします。（拍手）

**不支持が過半に**

**田中** 皆さん、こんにちは。2年半ぶりにお会いすることなのですけれども、杖を持たなきゃならなくなりました。実は、なかなか覚え切れないのですけれども、脊柱管狭窄症で手術しました。年内に杖も終わるだろうという希望的観測でいます。私も82歳になりますので、当然と言えば当然のことだと思っておりますが、この時点でいろいろ体が「車検」に出されているという感じで、こういう機会もいかと、そんな感じの1年を送りました。

久しぶりにお招きをいただいて、どうしても頭から離れないことがあります。どんどん浮き彫りにされてきているのです。私は平成の2大